

ゼネラリスト的なURAの一日と研究戦略の考え方

愛媛大学 学術推進・先端研究機構 教育研究高度化支援室
 リサーチアドミニストレーター 山田 朗 yamada@sci.ehime-u.ac.jp



RA-P57

愛媛大学でのURAは研究センターの張り付きに近い業務形態をとります。その日常業務は、センター内と学内外の諸部局との橋渡しが主となる“Research Management”といえます。しかし、自転車操業的に多種の教育研究活動をせざるを得ない「先端」研究センターでは前例の無い事項が次々に発生し、Managementで済まないこともあります。また、学内外の研究を巡る情勢にも無頓

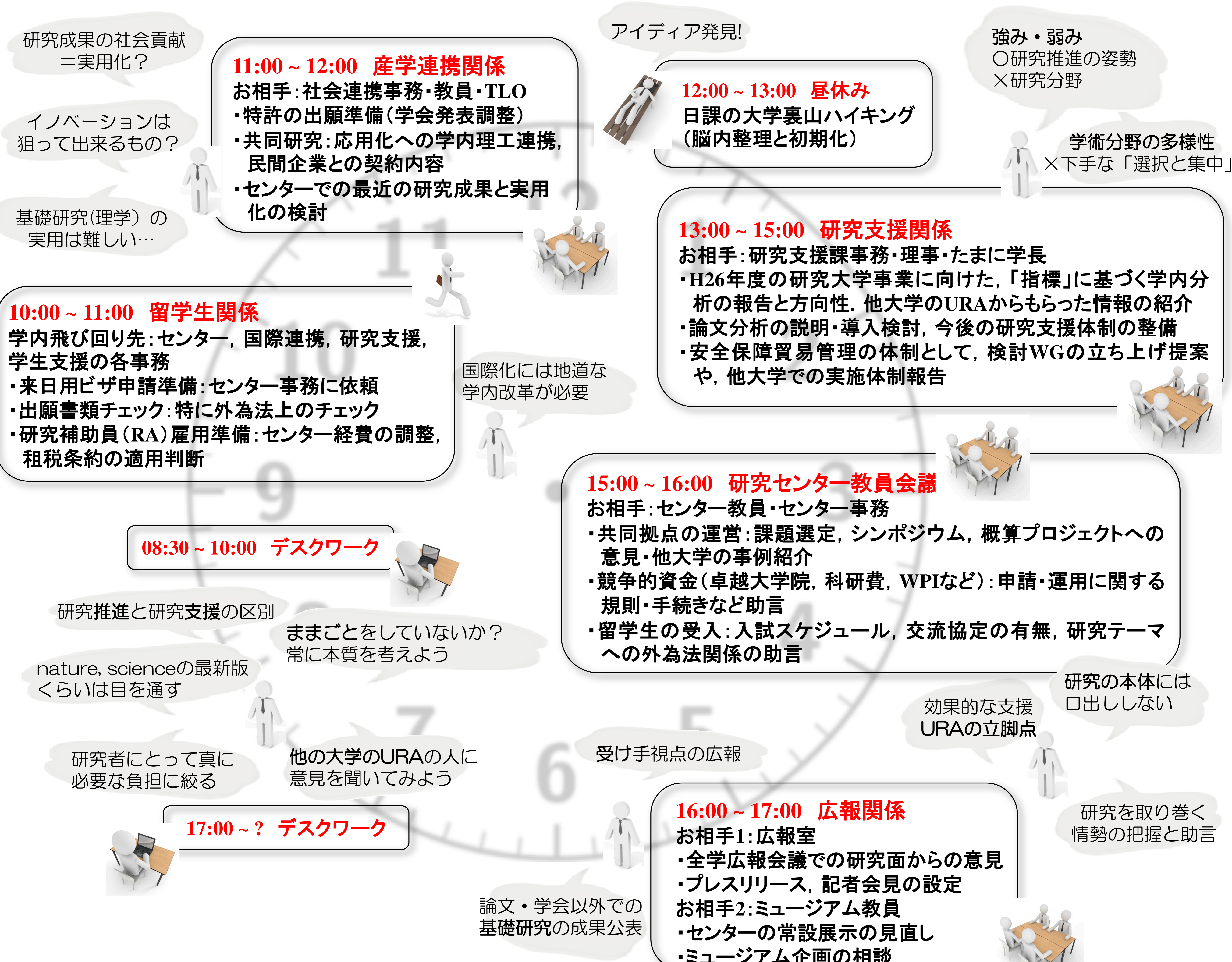
着ではいられないため、常に大学全体の動向やいわゆる「研究戦略」を頭におく必要があります。逆に、センター張り付きで得られる研究最前線の感覚を基に、大学全体・国全体のことを独自視点で考える時もあります(多少誇張が入っていますが)。そんな中、最近の流行言葉である「大学の強み・弱み」「選択と集中」「国際化」「イノベーション」「研究の質」など、研究現場と乖離したコンテ

クトで使われている感を持っています。さらに、「研究大学」そして「研究戦略」という言葉にも、自己の中で深く整理し、“Research Development”の考え方の必要を感じています。

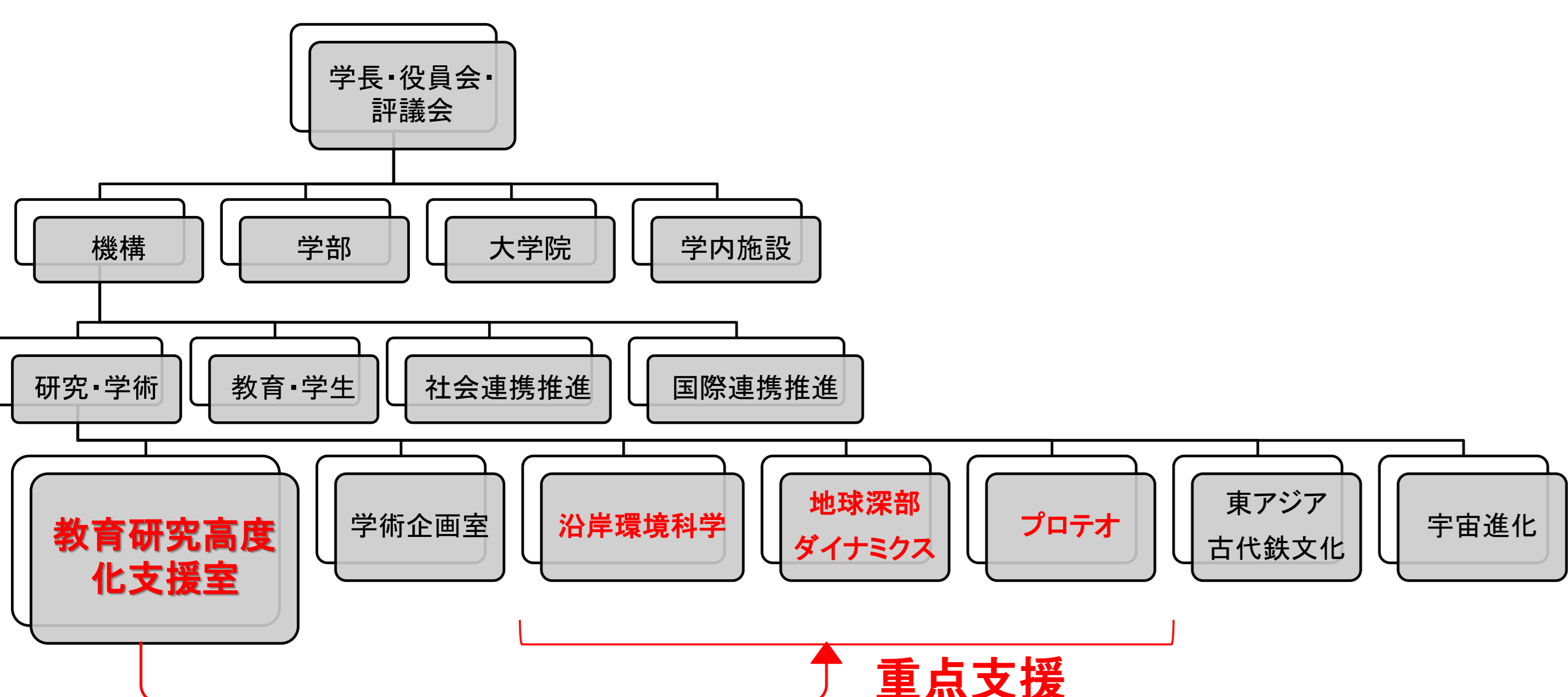
ただ申し訳ないながら、本ポスターでは筋道を立てた結論の提供には至っていません。みなさんご議論出来ればありがたいと思っています。

一日の過ごし方

最近の実例をもとに抽象的に表現しています。実際にはこんなタイトな過ごし方は出来ません



参考 愛媛大学の教育・研究支援体制



リサーチ・アドミニストレーター 専任・兼任合わせ3名
 ・先端研究センターなどの教育研究支援にあたり、競争的資金などの申請・執行支援、共同研究などの実施支援、国内外の研究機関及び外国人研究者などとの連絡調整、中高校生・企業・一般市民などへの広報活動を行う。

ラボ・マネージャー 専任・兼任合わせ6名
 ・高度な技術開発能力を有し、専門分野に関する先端研究センターなどの研究支援にあたり、技術開発および研究遂行に関し、研究設備機器の使用および技術面における管理・指導を行う。超高压合成装置・高压技術、海洋調査船運行担当など。